

## 園児と保育士の社会的時間とタイムマネジメント

——就学前教育における発表会に向けた活動の検討から——

慶應義塾大学大学院社会学研究科 大久保心

## 1 目的

本報告の目的は、就学前教育のなかで園児と保育士との間で生じる社会的時間について考察し、就学前教育で構築される時間意識やタイムマネジメントについて検討することである。

現代社会においては、スケジュールに基づいた社会生活が営まれ、特に学校における時間割に基づいたカリキュラムが組まれ、宿題を通じた学校外の時間管理が存在している (Moore 1963=1974)。義務教育が始まれば児童は有無を言う余地なく時間割に組み込まれ、社会に出た際の「大人の時間」に備えていく。一見スケジュールに合わせて行動することは、強制的であり、ネガティブな印象を拭えないが、一方で日常生活に秩序と予測性を与え、便利さを生み出すポジティブなものでもある (Zerubavel 1981=1984: 76)。

上記のような厳密な時間割に基づいた教育に至るまでの前段階である就学前教育では、いかなる社会的時間が形成されているのか、そして、どのような構造で形成されているのかという問いについて、発表会に向けた練習期間を通じた園児と保育士たちの相互行為から考えていく。

## 2 方法

2016年1月から3月まで定期的に行った認定こども園でのフィールドワークにおける観察データ (フィールドノート, 映像, 写真, 音声による記録) を用いる。事象見本法 (=あらかじめ観察すべき事象を決めて, その行動がどのように生じ展開するのかを, それが生じた文脈の中で組織的に観察するための技法) や逸話 (エピソード) 記録法 (=偶然起きたさまざまな出来事を人物の行動や発話の記録として記すための技法) を主に用いて観察した (柴山 2006: 37-40)。また、時間という視点から観察を行うために、記述的質問のマトリックス (Spradley 1980=2010: 106-7) を援用した。主に質的研究にもとづいて分析を行った。

## 3 結果・結論

発表会準備期間では、通常期間の園内活動とは異なるスケジュールに基づいた時間管理によって、そこで、園児は発表会の練習という集団的時間を強く意識付けられ、集団活動に集中する一方で、個人作業の時間、遊びの時間を「報酬」として大切にする。保育士は、強制的に時間厳守を子どもたちに要求するばかりではなく、園児独自の時間にも配慮をしつつ時間管理タイムマネジメントを行っている。園児が自主的に決められた時間に向けて行動するパターンを保育士が管理することで、園児の時間管理との主体的・積極的な関わりが構築されているのではないかと、という結論に至った。

## 文献

Moore, W. 1963, *Man, Time & Society*, New York: John Wiley & Sons, Inc. (=1974, 丹下隆一・長田攻一訳『時間の社会学』新泉社.)

柴山真琴, 2006, 『子どもエスノグラフィー入門——技法の基礎から活用まで』新曜社.

Spradley, J., P., 1980, *Participant Observation*, London: Thomson Learning. (=2010, 田中恵美子・麻原きよみ監訳『参加観察法入門』医学書院.)

Zerubavel, E., 1981, *Hidden Rhythms*, The University of Chicago Press. (=1984, 木田橋美和子訳, 『隠れたリズム: 時間の社会学』サイマル出版会.)